



家庭でできる10の工夫 遊びと関わりのヒント

子どもには、時期ごとに特有のものの見方や考え方があります。その時期の考え方に合わせて、親子で一緒に試せる遊びや関わり方をまとめました。

感覚運動期

0～2歳ごろ

見る、触る、体を動かすことで周りの世界を知る時期

1 いないないばあ

顔が隠れて、また現れる。繰り返しを一緒に楽しめます。

2 積み木・コップ重ね

積む、崩すを手で確かめます。台所のプラスチック容器でも遊べます。



前操作期

2～7歳ごろ

言葉やイメージで考え始め、見た目に判断が引っ張られやすい時期

3 お店屋さんごっこ

店員さんとお客さん。役を交代して、自分以外の立場も演じてみます。

4 水や砂の移し替え

形の違う容器に移して、量ってみます。すぐに分からなくても構いません。



具体的操作期

7～11歳ごろ

目の前の物を使えば、筋道立てて考えられる時期

5 料理で計量

「100mLを2回で200mL」を、計量カップで目で見えて確かめます。

6 片付けを分類ゲームに

色や形など、分けるルールを子どもと一緒に決めて片付けます。

7 トランプやすごろく

順番、ルール、数の比べっこ。勝つことも負けることも遊びの一部です。



形式的操作期

11歳ごろ以降

目の前にないことや、仮の条件について考えられる時期

8 紙飛行機の実験

「どの形が遠くまで飛ぶかな？」と予想して比べます。変える条件は一つずつ。

9 家庭のルールを話し合う

ルールの理由を言葉にして伝え、子どもの考えも聞きます。

10 「もし〇〇だったら？」と想像する

「もし先生になったら？」など、目の前にないことを話題にします。



年齢は目安です。資料によって区分が異なり（具体的操作期を7～12歳とするものもあります）、同じ子どもでも場面によって考え方が変わります。年齢に当てはめるより、お子さまの今の様子に合わせてお使いください。